

多摩上空に飛来した単機・少数機一覧（齊藤 勉「多摩上空のB29—単機、少数機の任務と空襲—」付表）

飛来した年月日	機数	部隊・任務番号	任務の種類	任務の内容	出典
1944年11月1日	1	3PR4M1	①	サイパン島を離陸した写真偵察機F-13（略称「東京ローズ」）は午後1時ごろに房総半島勝浦上空に到着。東京上空に侵入して東京の空中写真の撮影を行う。ドゥーリトル空襲以来東京上空に現れた最初の米軍機となる。	工藤洋三「写真偵察機F-13」『空襲通信』第3号
1944年11月7日		3PR4M4	①	多摩地域を含め関東地域の空中写真を撮影。立川、昭和、陸軍多摩（横田）の各飛行場に駐機中の飛行機数・機種を確認。立川飛行場は飛行機345機。昭和飛行場は零式輸送機10機、九六式陸上攻撃機2機、一式陸上攻撃機、単発機7機。陸軍多摩飛行場の存在を初めて確認し、年末までには「YOKOTA」と命名する。ただし、飛行機数などは認識できず。	「日本の飛行場」
1944年12月13日		3PR4M37A	①	調布飛行場に駐機中の単発機は38機、双発機は17機と確認。1945年7月16日に作成された陸軍火工廠多摩火薬製造所の「機能分析報告№F/A-229」に写真が利用される。中島飛行機武蔵製作所への11月24日と12月3日の空襲の効果を確認。	「日本の飛行場」 「各種日本関係情報」 中島飛行機武蔵製作所の「空襲損害報告書」
1944年12月28日		3PR4M49	①	陸軍多摩飛行場で双発機44機、単発機127機、四発機2機の駐機を確認。	「日本の飛行場」
1945年1月9日		3PR5M9	①	陸軍多摩飛行場で航空機154機を確認。	「日本の飛行場」
1945年1月16日		3PR5M16	①	立川飛行場に駐機中の飛行機は187機と確認。「航空機報告№87 立川飛行場」を作成。1945年7月20日に作成された「機能分析報告№F/A-233」に写真が利用される。中島飛行機武蔵製作所への12月27日の空襲の効果を確認。	「日本の飛行場」 「各種日本関係情報」 中島飛行機武蔵製作所の「空襲損害報告書」

1945年1月28日	3PR5M22	①	調布飛行場に駐機中の単発機は9機、双発機は51機と確認。「航空機報告№97 調布飛行場」を作成。1945年7月16日に作成された陸軍火工廠多摩火薬製造所の「機能分析報告№F/A-229」に写真が利用される。	「日本の飛行場」 「各種日本関係情報」
1945年2月10日	5M2 [マ]	①	陸軍多摩飛行場で不明ながら飛行機102機を確認。	「日本の飛行場」
1945年2月17日	[不明]	①	立川飛行場では飛行機137機（同日の資料に223機ともある）を確認。	「日本の飛行場」
1945年2月27日	3PR5M58	①	昭和、陸軍多摩飛行場に駐機中の飛行機数・機種などを確認。昭和飛行場では零式輸送機30機、単発機8機、陸軍多摩飛行場では双発機15機、単発機35機を確認。	「日本の飛行場」
1945年3月10日	3PR5M76	①	立川飛行場には飛行機122機が駐機。一部の写真は八王子市のリトモザイク作成にも使用される。	「工業報告№36 八王子地域」 「日本の飛行場」
1945年4月2日	3PR5M113	①	多摩地域の飛行場に駐機中の飛行機数・機種などを次のように確認。写真の質は優秀。立川飛行場：単発機120機、双発機43機の計164機。4発機は1機。双発機7機に損害、13機の不明確な飛行機がおそらく損害（損害を受けた飛行機は合計に含まず）（「日本の飛行場」には149機とある）。昭和飛行場：単発機1機、双発機24機の計25機（「日本の飛行場」には零式輸送機26機、不明ながら単発機2機とある）、この合計には7つの飛行機の胴体は含まれず。スクラップの堆積には破壊された飛行機の膨大な部品がある。横田飛行場（陸軍多摩飛行場）：単発機25機、双発機1機の計26機（「日本の飛行場」には不明確ながら双発機16機、単発機33機とある）。調布飛行場は数えられず。立川飛行機株式会社は前回の写真から破壊されたままになっている1棟のビルと少し破壊されたままになっている3棟のビルがある。中島飛行機武蔵製作所は新しい損害は見えず。前回の撮影から明らかな修理はない。	「日本の飛行場」 中島飛行機武蔵製作所の「空襲損害報告書」 テレコン
1945年4月7日	3PR5M126	①	中島飛行機武蔵製作所を撮影？	中島飛行機武蔵製作所の「空襲損害報告書」

1945年4月12日		3PR5M137	① 立川、昭和、陸軍多摩飛行場に駐機中の飛行機数・機種などを確認。中島飛行機武蔵製作所を撮影。	「日本の飛行場」 中島飛行機武蔵製作所の「空襲損害報告書」
1945年4月13日		3PR5M140	① 立川、昭和、陸軍多摩飛行場に駐機中の飛行機数・機種などを確認。立川飛行場に飛行機158機、昭和飛行場に零式輸送機23機、不確実ながら双発機2機、単発機6機、陸軍多摩飛行場に不明確ながら双発機9機、単発機34機が駐機。4月7日、12日の中島飛行機武蔵製作所への損害評価の分析に利用。	「日本の飛行場」 任務番号58、63の「作戦任務報告書」 中島飛行機武蔵製作所の「空襲損害報告書」
1945年4月13日		WSM371	② 立川を目標に500ポンド通常爆弾10個を25000フィートから投下。	「戦闘情報要約」
1945年4月18日	1	WSM386	② 中島飛行機武蔵製作所を目標に500ポンド通常爆弾10個を29000フィートから投下。	「戦闘情報要約」
1945年4月25日	1	WSM406	② 立川を目標に500ポンド通常爆弾10個を25000フィートからもやの中を目視で投下。結果は確認できず。敵機は観測されず。目標上空で激烈、貧弱、不正確な対空射撃があった。グアム島に252050K [251950J] に帰島。	「戦闘情報要約」 「任務要約」No.110
1945年4月28日	1	WSM415	② 立川を目標に500ポンド通常爆弾10個を30000フィートから10/1の雲の中をレーダーで投下。結果は確認できず。敵機の抵抗はなし。グアム島281857K [281757J] に帰島。	「戦闘情報要約」 「任務要約」No.110
1945年4月28日		3PR5M174	① 立川、昭和、陸軍多摩飛行場に駐機中の飛行機数・機種を確認。立川飛行場に飛行機19機、昭和飛行場に零式輸送機11機、不確実ながら双発機2機、単発機1機、陸軍多摩飛行場に九六式陸上攻撃機2機、四発機1機、不明確ながら双発機21機、単発機31機が駐機。	「日本の飛行場」
1945年4月29日	1	WSM419	② 立川航空工廠を目標に500ポンド通常爆弾10個を30000フィートから目視で投下。すぐれた結果。敵機の抵抗は確認できず。グアム島に291905K [291805J] に帰島。立川飛行場に駐機中の飛行機数・機種を確認。	「戦闘情報要約」 「任務要約」No.114 「日本の飛行場」

1945年4月29日		3PR5M177	①	目標は東京地域。空中写真を撮影し立川飛行場では76機（「日本の飛行場」には飛行機88機とある）、昭和飛行場では15機を確認。敵機1機がB29を攻撃。対空射撃は確認されず。グアム島に291126K [292026 J] に帰島。一部が八王子市のリトモザイクに使用される。	「工業報告№36 八王子地域」 「任務要約」No.115 「日本の飛行場」
1945年4月30日		3PR5M181	①	目標は立川、横須賀と東京地域の飛行場。写真を撮影。硫黄島に燃料を補給のため着陸、グアム島に301935K [301835 J] に帰島。	「任務要約」No.115
1945年4月30日		3PR5M182	①	目標は立川、東京郊外地域。東京上空で写真撮影。グアム島に301835K [301735 J] に帰島。	「任務要約」No.115
1945年5月8日	1	3PR5M195	①	浜松－立川が目標。ただし、何らかの原因で航空写真を得ることをできなかった。	テレコン
1945年5月10日		3PR5M197	①	立川飛行場には飛行機101機が駐機。一部の写真は八王子市のリトモザイク作成に使用される。	「工業報告№36 八王子地域」 「日本の飛行場」
1945年5月17日		3PR5M219	①	中島飛行機武蔵製作所、立川飛行場、立川航空工廠を撮影。立川飛行場は単発機は29機、双発機は21機、4発機は1機。立川航空工廠は1945年4月30日（任務126）の爆撃からの損害は発見できず。	中島飛行機武蔵製作所の「空襲損害報告書」 テレコン
1945年5月18日		3PR5M221	①	写真を10/2の雲を通して高度32500フィートで撮影。35の不正確な対空射撃の破裂。立川、昭和飛行場に駐機中の飛行機数・機種を確認。立川飛行場には単発機51機、双発機28機、4発機1機の計60機（「日本の飛行場」には104機とある）、昭和飛行場には零式輸送機13機が駐機。1945年7月16日に作成された日野重工業の「機能分析報告No.F/A-235」に写真が利用される。	「日本の飛行場」 「各種日本関係情報」 テレコン
1945年5月20日		WSM482	②	目標は立川陸軍航空廠。	テレコン ※ただし、目標まで飛来せず「Hameda」(?)に爆弾を投下
1945年5月24日		3PR5M231	①	立川、昭和、陸軍多摩飛行場に駐機中の飛行機数・機種などを確認。立川飛行場には単発機36機、双発機80機、4発機1機など（「日本の飛行場」には71機と	「日本の飛行場」 テレコン

			ある)、昭和飛行場には双発機15機、単発機5機など(「日本の飛行場」には零式輸送機14機、九九式艦上爆撃機4機、「Pine」1機、製造中の零式輸送機6機とある)、陸軍多摩飛行場には双発機36機、単発機52機など(「日本の飛行場」には九七式重爆撃機5機、九九式双発軽爆撃機1機、二式戦闘機「屠龍」14機、四式戦闘機「疾風」3機、一式戦闘機「隼」1機、不明確ながら双発機18機、単発機48機とある)が駐機。	
1945年5月29日		3PR5M250	① 中島飛行機武蔵製作所を撮影。	中島飛行機武蔵製作所の「空襲損害報告書」
1945年5月31日		3PR5M254	① テレコンでは調布飛行場に単発機39機、双発機16機の計55機が駐機中であることを確認。「日本の飛行場」には不確実ながら双発機23機、単発機37機、九六式陸上攻撃機1機を確認とある。	「日本の飛行場」 テレコン
1945年6月3日	1	315PSRM3	⑤ 目標は立川飛行機工場と武蔵野発動機工場、東京地域。15000フィートから244フィートのレーダー映像写真を得る。敵機の抵抗はなし。対空砲火は激烈、貧弱、正確から不正確だった。35のサーチライトが確認された。天候は雲高視界無限。グアム島に帰投。	「戦闘情報要約」№150 テレコン
1945年6月10日		3PR5M200[マ]	① 立川飛行場に駐機中の飛行機を分析。	第20航空軍『週間情報誌』
1945年6月10日		3PR5M279(立川) 「5WR150」(調布)	① M279の目標は神戸-大阪-東京地域(「戦闘情報要約」№157には調布、立川飛行場を撮影した記録はない)。調布飛行場でdは不確実ながら双発機9機、単発機65機を確認。立川飛行場では不明確ながら双発機3機、単発機10機を確認。	「日本の飛行場」※調布飛行場の報告の任務番号は「5WR150」となっているが、「戦闘情報要約」にはそのような任務番号はない。
1945年7月10日	1	73WRM312	② 目標は東京地域。1機が091952[Z]に離陸。2/10の雲を通して高度26500 ③ フィートから目視で大宮、小田原、八王子(100316Z[101216J])(2発)、川越、東京などにT-3リーフレット爆弾を投下した。立川上空で7つ、東京上空で20のかなり正確な対空射撃の破裂に遭遇した。気象データを得て1010	「戦闘情報要約」№187 テレコン

				36Z[101936J]にサイパンに帰投した。リーフレットの枚数は6万枚。	
1945年7月10日	1	3PR5M330	①	調布、立川、昭和、陸軍多摩飛行場に駐機中の飛行機数・機種などを確認。横田飛行場は単発機22機、双発機18機の計40機。ただし、飛行不能の単発機4機は含まない（「日本の飛行場」には陸上攻撃機「銀河」2機、艦上攻撃機「天山」3機、不明確ながら単発機22機とある）。調布飛行場は単発機41機、双発機2機の計43機。立川飛行場は単発機27機、双発機19機の計46機（「日本の飛行場」には九七式重爆撃機2機、一〇〇式重爆撃機「呑龍」1機、九九式双発軽爆撃機2機、零式輸送機1機、二式戦闘機「鍾馗」4機、不明確ながら4発機6機、単発機9機とある）。昭和飛行場は零式輸送機14機、艦上攻撃機「天山」2機、不明確ながら単発機2機。立川陸軍航空工場の空襲の被害状況を21.2%（合計では35.1%）と確認。中島飛行機武蔵製作所も撮影。	「日本の飛行場」 「戦闘情報要約」№188 中島飛行機武蔵製作所の「空襲損害報告書」
1945年7月10日	2	314RSPM31	⑤	目標は八王子と長野。2機が100751[Z]に離陸。10/0から8/10の雲を通して10000フィートから映像撮影を行い良好な結果を得る。迎撃機と対空射撃による抵抗はなし。110034Z[110934J]にグアムに帰投した。	「戦闘情報要約」№186 テレコン
1945年7月10日		CV10-484		立川飛行場で九七式重爆撃機2機、一〇〇式重爆撃機「呑龍」1機、九九式双発軽爆撃機2機、「Randy」6機、零式輸送機1機、不明確ながら双発機3機、単発機13機を確認。	「日本の飛行場」※この写真偵察飛行については全く不明。
1945年7月11日	1	73WRM317	② ③	② 目標は浜松と東京地域。1機が102003Z[110523J]に離陸。気象情報を入力するとともに次の目標に15000フィートから計26発のT-3リーフレット爆弾を投下した。島田、静岡、清水、甲府、八王子（4発）、千葉。敵の抵抗はなく、 ③ 111010Z[111919J]にグアムに帰投した。八王子に投下されたリーフレットの枚数は6万枚。	「戦闘情報要約」№188 テレコン

1945年7月13日	1	73WRM328	③	目標は東京地域。121950Z [130350J] に離陸。敵の抵抗はなし。東京で対空射撃の大変不正確な破裂があった。T-3リーフレット爆弾をレーダーと航法方法で10/10の雲を通して27000~27500フィートから次のように投下した。掛川、金谷、島田、静岡、清水、大宮、八王子（2発、130230Z [131130J]）、府中（2発、130232Z [131132J]）、調布（2発、130233Z [131133J]）、東京、千葉。八王子、府中、調布に投下されたリーフレットの枚数は各6万枚。	「戦闘情報要約」№190 テレコン
1945年7月14日	1	73WRM334	② ③	目標は東京地域。1機が132002Z [140502J] に離陸。敵機の抵抗はなし。対空射撃は次の通り。島田で1発の破裂、立川で2発の破裂、東金で1発の黒煙の破裂、片貝で1発の黒煙の破裂。すべて不正確であった。T-3リーフレット爆弾を25500フィートから以下に投下した。島田、静岡、清水、大宮、甲府、八王子（2発、140303Z [141203J]）、東京、千葉、東金、k a t o g i。140925Z [141825J] に帰投した。八王子に投下されたリーフレットの枚数は6万枚。	「戦闘情報要約」№191 テレコン
1945年7月22日		314RSPM42	⑤	八王子、岡谷、新居浜、飯塚	「戦闘情報要約」№198
1945年7月26日	1	73WRM394	② ③	目標は東京地域。251952Z [260452J] に離陸。26000フィートで気象データを得た。下田、甲府、八王子、東京、清水上空での対空射撃は貧弱、正確、不正確であった。261026Z [261926J] にグアムに帰投した。24発のT-24リーフレット爆弾を下田、静岡、清水、甲府、八王子（4発）、東京に投下した。八王子に投下されたリーフレットの枚数は12万枚。	「戦闘情報要約」№203 テレコン
1945年7月27日	1	3PR5M399	① ③	目標は東京地域。1機が261957Z [270457J] に離陸、島田、静岡、清水、甲府、八王子（3発、270308Z [271208J]）、東京に26発のT-3リーフレット爆弾を投下を投下したのち、270847Z [271747J] にグアムに着陸。八王子に投下されたリーフレットの枚数は9万枚。	「戦闘情報要約」№204 テレコン
1945年7月29日	1	№11	⑧	目標は中島飛行機発動機工場。7297号機は視界無限大のなか目視で1万ポンド特殊爆弾 [模擬原爆] を290023Z [290923J] に投下。敵機の抵抗はなし。投弾後	「第509混成群団司令部、最終報告」

				30秒から60秒たって東京で対空砲火を受ける。爆撃の結果は貧弱。当日は郡山にも2発投下。	
1945年7月31日	6	73LM's 7 thru 12	③	目標は以下の目標欄に掲げたもの。6機が310400Z [311300J]、310456Z [311356J] までの間に撃した。敵機の抵抗はなし。目標における対空砲火は、遭遇なしから重火器および中級火器の弱く、不正確なものまでであった。0から10/10までの雲を通して、14250 フィートから 15000 フィートまでの高度からT-1リーフレット爆弾とT-46閃光弾を以下のように投下した。八王子（T-1、6発、M-46、2発、311113-1124Z [312013-2024J]）、水戸、長岡、函館、久留米、福山、舞鶴、西宮、大津、富山、長野、前橋。八王子に投下されたリーフレットは6万枚。	「戦闘情報要約」№208 テレコン
1945年8月4日	1	73WRM440	② ③	目標は東京-新潟地域。1機が032000Z [040500J]に離陸。高度25000フィートから平塚、八王子（3発、040252Z [041152J]）、前橋、長岡、新潟、宇都宮、東京に26発のT-3リーフレット爆弾を投下した。搭乗員のうちの5名の者が、東京東端の飛行場の滑走路上にB-29があるのを見た。帰途に硫黄島で給油ののち、041235Z [042135J]にグアムに着陸した。八王子に投下されたリーフレットの枚数は13万8000枚。	「戦闘情報要約」№212 テレコン
1945年8月5日	1	3PR5M376	①	目標は東京飛行場地域。1機が041447Z [042347J]に離陸。敵機の抵抗はなし。対空砲火は八丈島で8つの不正確な破裂、川崎で50の正確な破裂があった。30000フィートから雲のためわずか2つの目標の写真しか得ることができなかった。050609Z [051509J]にグアム島に帰投した。この写真が八王子市の空襲の損害の判定に使用される。	「戦闘情報要約」№212

【注】 米軍資料の資料的制約（欠落や印字が不鮮明など）があり、この表はすべての少数機の飛来を網羅していない。

【任務番号の解説】 「3PR」は「第3写真偵察戦隊」のこと。「3PR」の後の「4」は1944年、「5」は1945年を、その後の「MOO」はミッションNoを表す。「WSM」は気象観測・爆撃作戦のこと。「RSPM」はレーダースコープ写真・爆撃作戦のこと。「WSM」や「RSPM」の前の「73」は第20航空群第73航空団、「314」は第314航空団、「315」は第315航空団のこと。7月29日の任務番号は模擬原爆の投下作戦の番号。7月31日の任務番号は第73航空団による一連のリーフレット投下

作戦（「L」）の番号。

【飛行場について】 陸軍多摩飛行場：横田飛行場、現・横田基地のこと。昭和飛行場：昭和飛行機にあった飛行場。

【Z時刻とK時刻】 041447Zなどの数字は時刻表示。24時間制で、「Z」とはグリニッジ標準時（世界時）のこと。041447は4日14時47分となる。これに9時間000900を加えて日本時間に換算し〔 〕内にJを入れて[042347J]と示した。「Z」とはグリニッジ標準時（世界時）のこと。041447は4日14時47分となる。これに9時間000900を加えて日本時間に換算し〔 〕内にJを入れて[042347J]と示した。「K」とは東経150°の子午線による地方時（マリアナ時刻）のこと。K時刻はこれから1時間000100を減じて日本時間に換算した。詳細は奥住喜重『米軍新資料－八王子空襲の記録』参照。

【任務の種類】 ①写真・偵察作戦 ②気象観測・爆撃作戦任務 ③リーフレット投下作戦 ④レーダー対策作戦 ⑤レーダースコープ写真・爆撃作戦 ⑥海上救難作戦 ⑦航空護衛作戦 ⑧模擬原爆投下作戦

※出典のうち「テレコン」はピースおおさかにマイクロフィルムで所蔵されているアメリカ軍の資料。その他は「米国戦略爆撃調査団」の資料。国立国会図書館憲政資料室所蔵。

※「戦闘情報要約」で齊藤が所蔵していないものについては奥住喜重『米軍新資料－八王子空襲の記録－』から引用した。

※「テレコン」とはTeleconで、Teletype Conferenceの略。ワシントンとグアムのような前線の司令官の間ではテレタイプで交信協議、報告が行われており、その通信文をテレコンと称した。